

保育所でよく見る発疹を伴う病気：溶連菌感染症

1) 原因

溶血性連鎖球菌によって発症します（保育所においては、A群溶血性連鎖球菌による感染症が主な問題となります）。感染経路は、咳やくしゃみなどで空気中に飛散した菌を吸い込む「飛沫感染」や、傷の浸出液に触れることによる「接触感染」です。

2) 好発年齢

幼児から学童にかけての罹患が多いのが特徴です。

3) 症状と経過

潜伏期間は、咽頭感染の場合は2～5日、皮膚感染の場合は7～10日です。咽頭感染では、突然の発熱、咽頭痛などで発症し、時に頭痛や腹痛・嘔吐を伴うことがあります。咽頭や扁桃腺は発赤し、イチゴ舌、発赤を伴う点状の皮疹が腋（ワキ）や股（ソケイ）を中心に広がることもあり、顔面は紅潮し口の周囲は蒼白（口囲蒼白）となる場合もあります。皮膚感染では伝染性膿痂疹（とびひ）の主要な原因菌の一つとなります。主な合併症は中耳炎、扁桃周囲膿瘍などですが、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を合併することもあります。急性糸球体腎炎は咽頭炎に続いて発症し、約10日目頃に血尿や乏尿を伴い、全身性浮腫や高血圧を引き起こし、頭痛などが現れることがあります。

4) 特徴的な皮疹、イチゴ舌、咽頭発赤の写真



5) 診断

診断のための主な検査には、抗原検査と培養検査があります。最も一般的に使用されるのは、短時間で結果が得られる抗原検査（溶連菌迅速診断キット）です。症状からA群溶血性連鎖球菌咽頭炎が疑われる場合でも、抗原検査が陰性の場合には、培養検査を行うこともあります。

6) 医療機関の受診を勧めるポイント

次の症状が見られた場合、また周囲に溶連菌感染症の患者や、それを疑う症状の人がいる場合には、医療機関を受診し、検査と適切な治療を受けましょう。

- ・咳を伴わない咽頭痛
- ・発熱
- ・発疹が全身に広がり、かゆみが強い

溶連菌感染症の場合、市販の風邪薬は効果がありません。合併症を防ぐためにも、早期に医療機関で処方された適正な抗生物質を服用する必要があります。また、周囲への感染拡大を防ぐためにも、早期の対応が重要です。発熱して、元気や食欲がないときは、医療機関を受診しましょう。

7) 登園の目安

学校保健安全法施行規則では、適正な抗菌薬を内服した後、24時間経過すれば感染力はなくなるので、それ以降は登園（校）は可能とされますが、解熱し、食欲や体力も十分回復していると安心です。

参考：溶連菌（A群溶血性連鎖球菌）感染症 | 国立成育医療研究センター

2024年12月

日本保育保健協議会
感染症対策委員会